



こころに残る景観資源発掘プロジェクト

こころに残る みち景観

岸和田市



目次

- P.02 こころに残るみち景観マップ
- P.03 こころに残るみち景観
- P.08 こころに残るみち景観応募者エピソード集
- P.11 こころに残る景観資源 これまでの指定資源一覧
- P.12 プロジェクトの系譜

こころに残るみち景観マップ



【こころに残るみち景観】

- 01_岸和田大橋（阪神高速湾岸線）
- 02_岸和田港を臨むみち
- 03_堺町のだんじり小屋横
- 04_お寺の道（本町紀州街道）
- 05_南町のみち（紀州街道）
- 06_春を待つ岸和田城の桜道
- 07_春木川遊歩道（兵主神社横）
- 08_久米田寺へ続くみち
- 09_久米田池遊歩道（平成26年度指定分）
- 10_久米田池遊歩道（平成27年度指定分）
- 11_東ヶ丘町グリーンバルトロード・花絨毯
- 12_流木墓園桜並木みち
- 13_阿間河滝の阿弥陀寺への参道

- 14_包近楠本神社もも花参道
- 15_福田町のまちなみ
- 16_牛滝街道（積川町）
- 17_バラの小道（蜻蛉池公園）
- 18_メタセコイアの小道（蜻蛉池公園）
- 19_相川ほたる遊歩道
- 20_牛滝いよやかの郷散策道
- 21_和泉葛城山登山道

※ こころに残る景観資源の見学にお越しの際は公共交通などをご利用下さい。
また、周辺の迷惑にならないよう管理者の指示に従うなどマナーを持って来訪して下さい。

ここに残るみち景観

01 岸和田大橋（阪神高速湾岸線）

岸和田ベイサイドモールから海側を眺めると全長455mの本アーチ橋の雄大な姿があり、エピソードに山手側の高台からも臨むことができるとあるように岸和田のウォーターフロントを印象付けるランドマークといえる。

また、応募者の「外出から帰って来る時、あるいは海外からのお客様や岸和田を訪れる方がここを通る時、出迎えてくれるような岸和田のシンボルゲート」というコメントは印象深く感じた。



港緑町



02 岸和田港を臨むみち

江戸時代には、既に海運で栄えたとの記録が残る岸和田港も、岸和田旧港再開発事業等によって、現在では様相を新たにしているが、この海沿いの道にはガス燈を模した街路灯や岸和田港が栄えた時代を象徴する「錨のモニュメント」そして、今も係留された舟を間近で見ることができ、潮の香りが漂うなか、この辺りをそぞろ歩きしながら眺める夕日もとても美しく、海辺のここに残る景観が広がっている。



港緑町



03 堺町だんじり小屋横

エピソードに子供の時に通った路地で今でもだんじり見物の時に使っているとあるようにすぐ横に堺町のだんじり小屋、その先にはだんじり曳行を見ることができる。

応募者にとってここに残る「みち景観」であるとともにこの路地から見えるだんじり祭りはすばらしいみち景観をつくり出している。



堺町



04 お寺の道（本町紀州街道）

江戸時代より、「城下町・岸和田」の商業の中心地として栄えた紀州街道にあたり、写真にあるお寺のほか、本瓦葺き・つし二階・出格子に代表される町家型住宅が連続して立地し、岸和田の歴史と文化を色濃く感じさせるみちとなっている。



本町



ここに残るみち景観

05 南町のみち（紀州街道）

旧岸和田町の一部で、岸和田城下の一番南に位置することによって由来する南町にあって商業の中心地として栄えた紀州街道には、蛸地蔵伝説を今に語り継ぐ天性寺参道の石灯籠やつし二階、出格子のある町家型住宅も散見され、岸和田の歴史・文化を今に伝えるみちとなっている。



南町



06 春を待つ岸和田城の桜道

桜並木に彩られた堀端のみちは再整備のうえ、新たな城の写真撮影スポットも創出され、たくさんの観光客や市民が来訪する岸和田のシンボル「岸和田城の景観」を支える重要な要素となっている。



岸城町



07 春木川遊歩道（兵主神社横）

国の重要文化財である兵主神社の横を流れる春木川、その両岸に遊歩道が整備され、神社社叢と擬木柵が施された春木川の間を縫うように続き、そのすぐ先には緑豊かな中央公園が広がっている。

インターロッキング舗装が施されたこの水辺の遊歩道は、中央公園へ散歩に訪れる人々を誘う健康ロードとしても利用されている。



西之内町



08 久米田寺へ続くみち

光明塚古墳（市史跡）の脇を通り過ぎたところから久米田寺へと誘う路地は、ゆるやかにカーブを描きながら数十メートル続く。その両側は瓦葺の白い塀が流れるように連なり、塀越しには久米田寺の黒い雄大な大屋根が現れる。

静寂と和風情緒に包まれ、文化財の集積する本エリアにあって、不思議で趣のある景観が演出されている。



池尻町



09 久米田池遊歩道(平成26年度指定分)

水面面積45.6haの雄大な久米田池（府史跡名勝）の周囲に設けられた遊歩道は桜並木や久米田寺（府史跡）とも相まって親水空間へたくさんの人々を誘っている。

現地調査では猛暑にもかかわらず数人の方がジョギングを楽しむ姿が見られ、市民に親しまれている景観資源といえる。



池尻町



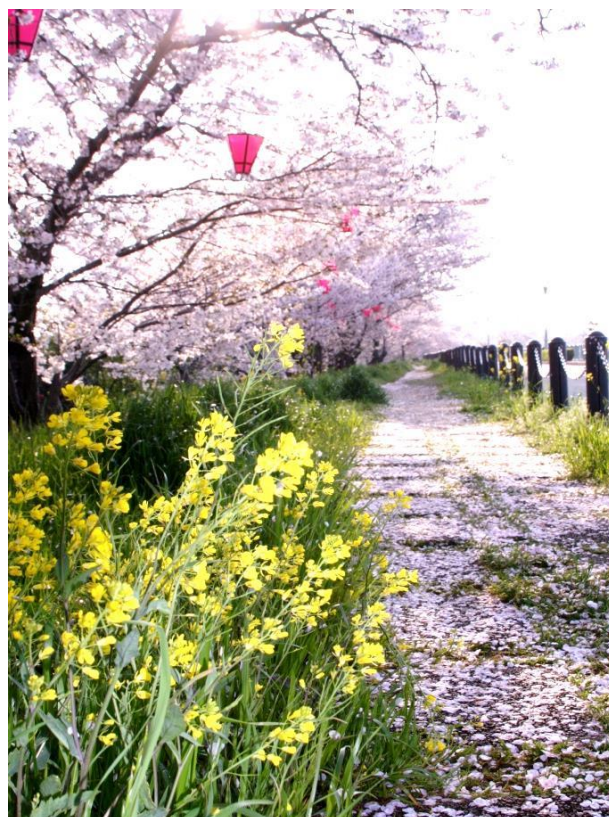
10 久米田池遊歩道(平成27年度指定分)

「世界かんがい施設遺産」に指定され改めて歴史的価値が評価された雄大な久米田池は、桜並木や久米田寺などの自然に恵まれた文化的な価値の高い景観を有している。

また、周囲の整備された久米田池遊歩道は、桜祭りや秋祭りの時期をはじめ、ウォーキングやジョギングを楽しむ多くの市民に利用され、親しまれる景観資源である。



池尻町



この桜は、平成30年の台風の際に損傷し、大部分が切除されています。

11 東ヶ丘町グリーンベルトロード・花絨毯

写真は桜の咲く春の時期であるが、現地調査では緑の葉をつけた桜等が連なっており、日常管理も良くされていた。

地域の財産として地元住民が大切に、花の咲く春を楽しみにして待っておられる姿が容易に想像された。

並木の前の路上駐車にもお互いに気を付ければ一層すばらしい地域の誇りとなる景観といえる。



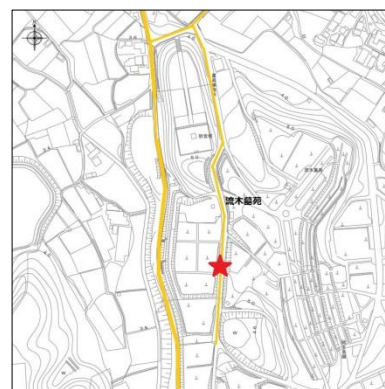
東ヶ丘町



12 流木墓園桜並木みち

ここに残る樹木として景観資源に指定した流木墓園の桜並木は、春には満開の桜のトンネルがカメラを持った多くの人々を楽しませている。

墓参りに訪れる人々の故人との思い出や家族で行楽に訪れた時の記憶など様々な思いの詰まったこの桜並木みちはここに残るみち景観資源でもある。



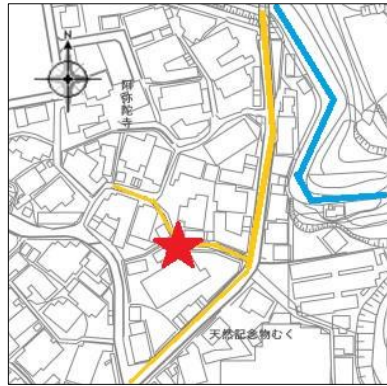
流木町



ここに残るみち景観

13 阿間河滝町の阿弥陀寺への参道

道の沿道を焼杉板の建物壁面と2～3mの石垣に支えられた瓦葺の漆喰塀の間を縫う歴史的な情緒あふれる阿弥陀寺への参道は、古い家並みの残る阿間河滝町にあり、ここを訪れる人々の興味を引く景観が映し出されている。



阿間河滝町



14 包近楠本神社もも花参道

楠本神社の参道となるこの道沿いには桃畑が連なり、灯籠横の桜が存在感を示し、両者が融合したまったりとした空間を形成しており、その先にある社寺林へと続くほのぼのとしたみち景観である。



包近町



15 福田町のまちなみ

福田町の集落には石垣積みの上に築かれた塀や焼杉板や漆喰を施した門長屋など古い伝統的な様式の家屋が多数受け継がれており、歴史街道を思わせるような趣のある坂道の景観が形成されている。



福田町



16 牛滝街道（積川町）

歴史の道・牛滝街道沿いの積川町集落のなかに旧造り酒屋の酒蔵や主屋が建ち並ぶ情緒あふれる閑静なまち並みそして脇を流れる水路や土壁の塀が、より一層の風情を増しており、とても魅力的な景観を形成している。



積川町



ここに残るみち景観

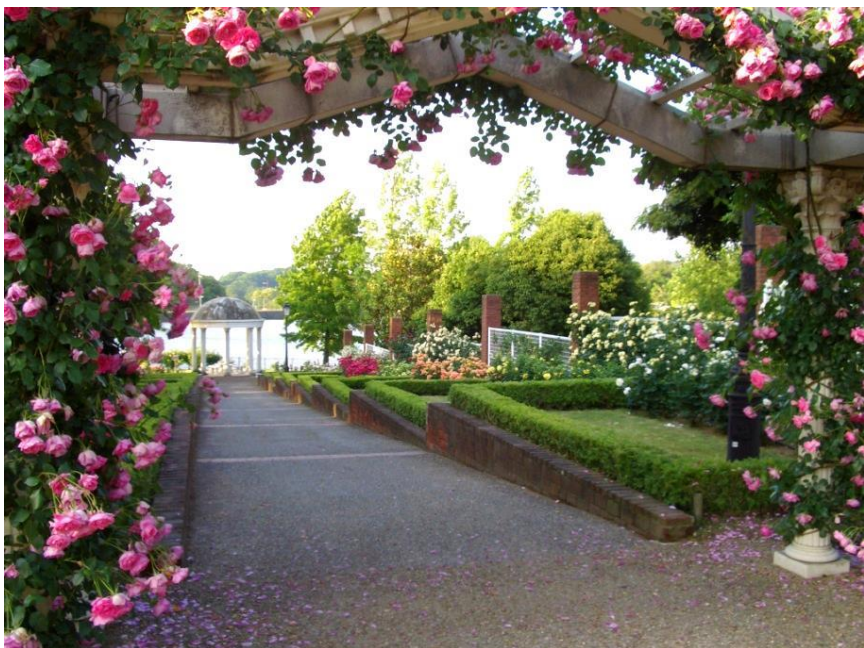
17 バラの小道（蜻蛉池公園）

本市の花である「バラ」が多く植えられた「蜻蛉池公園のバラ園」は、地域のシンボルにもなり、特に春・秋シーズンには、多くの人々が訪れる。

バラの香りが漂うなか、バラのアーチをくぐると、道沿いにバラを配した先の池岸には、ガセボ（西洋風あずまや）があり、そして、白鳥の泳ぐ大池の風景が広がっている。



三ヶ山町

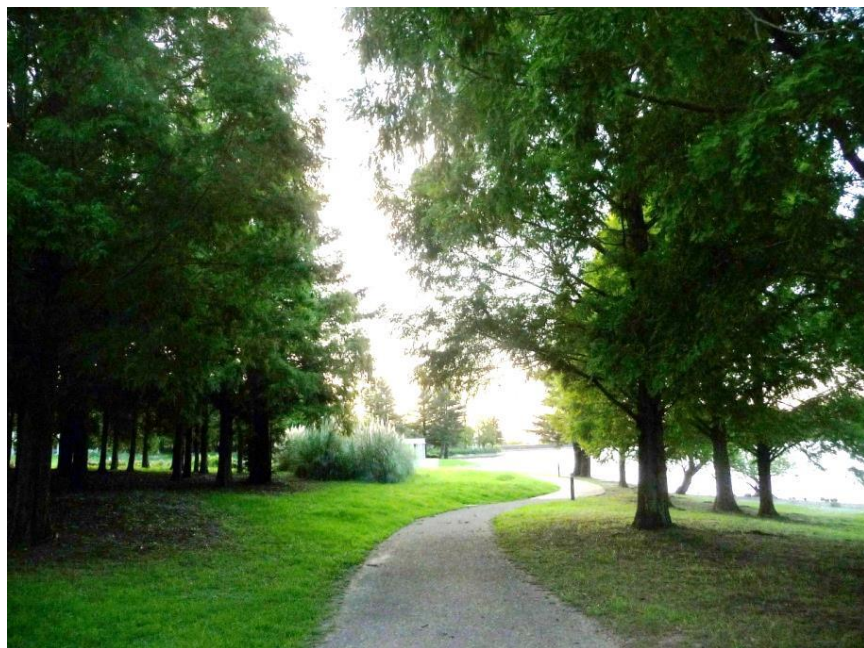


18 メタセコイアの小道（蜻蛉池公園）

ここに残る樹木として景観資源に指定したメタセコイアは、大池までの園路に配置され、春夏には緑陰を秋には鮮やかな紅葉を、そして冬には落葉した幹枝が空に向かって伸びる雄大な樹形をくっきりと表わし、訪れる多くの方々に魅了する景観が形成されている。



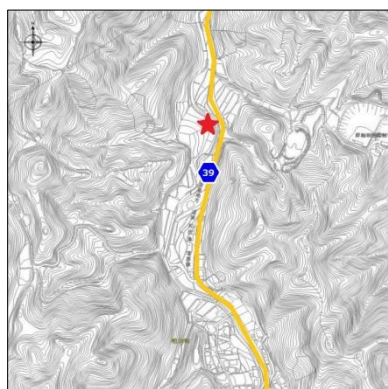
三ヶ山町



19 相川ほたる遊歩道

津田川沿いに設けられた遊歩道となっており、少し進めば棚田の風景が広がり、のどかな空間が形成されている。

また、6月の蛍の飛び交う時期には多くの人々が訪れ、一層魅力ある景観が創出されている。



相川町



20 牛滝いよやかの郷散策道

大威徳寺のすぐ横の滝から流れ出す牛滝川最上流にあたる水と緑豊かな溪流沿いに散策路が整備されている。

右岸にはスギなどが繁茂する山の風景、左岸には桜や紅葉など四季の移ろいを感じさせる樹木に囲まれた「いよやかの郷」の温泉施設が隣接している。

ここから臨む風景や鳥の鳴き声、温泉施設など視覚だけでなく、聴覚や知覚にもやさしく働きかける癒しが体感できる景観が繰り広げられている。



大沢町



いよやかの郷は、運営者の変更により施設名が牛滝温泉四季まつりとなっています。

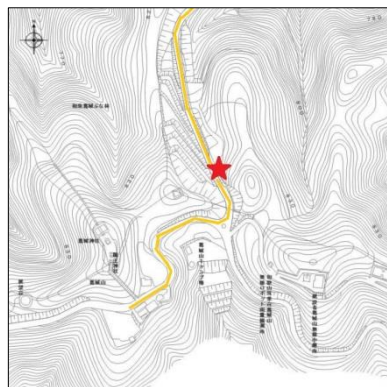
ここに残るみち景観

21 和泉葛城山登山道

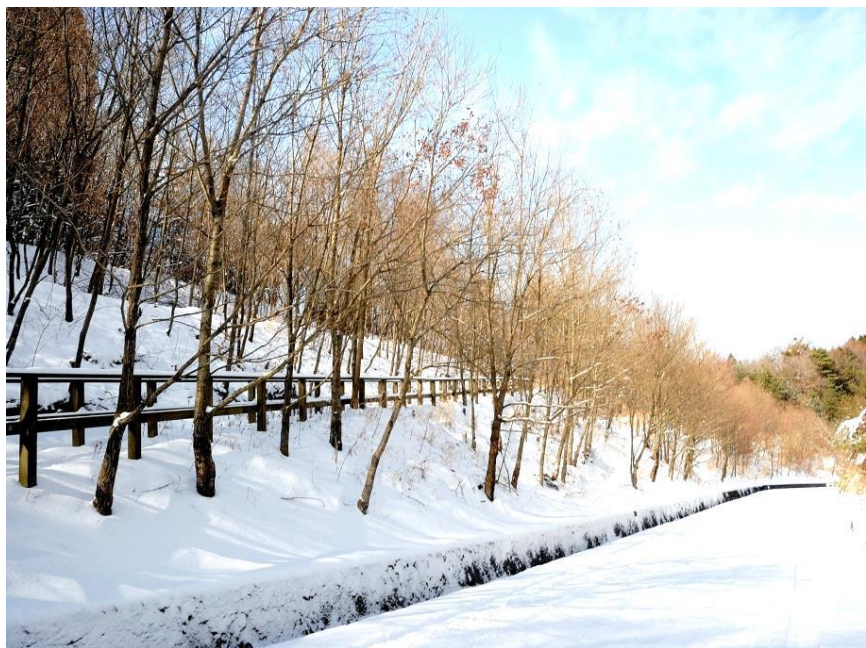
この登山道を進む時、鳥のさえずりや緑の木立など豊かな自然を享受でき、ゴミも一切落ちておらず地域の人々の愛着を感じられた。

特に山頂に近い北側斜面には国の天然記念物に指定されたブナ林が広がり、その中を縫うようにボードウォークも整備されている。

木々を傷めないよう配慮されたこのみちは、こうした貴重な景観へと誘っている。



塔原町



ちきりくんのここに残る景観を巡る旅
「ちきちきwalk」

ここに残るみち景観 応募者エピソード集



1. 岸和田大橋
(阪神高速湾岸線)

阪神高速湾岸線の岸和田大橋の優雅な姿は、市内の浜側からはもちろん山手側からも高台から臨むことができる。秋には祭の背景として、夏には花火が浮き上がらせるシルエットとして、多くの人々の心に刻み込まれている。また、この橋は岸和田から自動車で行く人、そして旅から戻ってくる人にとって街を代表するランドスケープでもある。さらに最近は海外からの訪問者を乗せた車が往来する岸和田のシンボルゲートとして、多くの人々の心に刻まれている。(応募者：51歳／男性)



2. 岸和田港を
臨むみち

「海」を手軽に感じることができる「みち」だと思います。私にとっては小学生のころまで遊んだ懐かしく思い出深い場所でもあります。大工町辺りの砂浜で遊んだあと、波の音を聞きながらこの岸和田港まで歩きました。今では砂浜がなくなり、港の構築物なども大きく様変わりしましたが、ここが海の匂いを間近に体感できる場であることに変わりはありません。また、整備された遊歩道も美しく、ここから眺める夕日は必見です。岸和田港は岸和田市のシンボル・遺産として、これからも永く歴史を重ねていってほしいです。(応募者：64歳／男性)



3. 堺町
だんじり小屋横

子供の頃、堺町だんじり小屋横の路地は浜から町への抜け道に使っていました。大人になった今でもだんじり見物の時には使っている道です。子供に受け継ぎたいですね。(応募者：36歳／男性)



4. お寺の道
(本町紀州街道)

はじめて通った道だったけど、子どもの頃を思い出した。(応募者：69歳／男性)

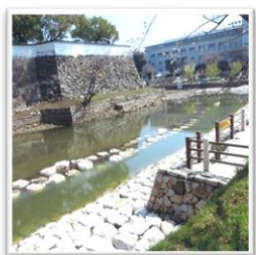
※「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」のタイトル及びエピソードは応募原文のままとしています。

ここに残るみち景観 応募者エピソード集



5. 南町のみち
(紀州街道)

天性寺（蛸地蔵）参道や丸型ポストのある南町の「みち」です。お隣の本町で生まれ育った私には、このあたりも子供のころの遊び場でした。最近ではだんじり祭りのときに訪れるくらいとなっていました。今でもここに立つと小さな自転車でこの道を何度も往復したことや、天性寺にお参りされている方々の様子を不思議さと憧れの目で眺めていたことなどを懐かしく思い出します。ここは民家の佇まいや石灯籠、ポストだけではなく道路や電柱、電線なども含め、私が「昭和」を強く感じる「みち」でもあります。(応募者：64歳／男性)



6. 春を待つ岸和田城の桜道

もう何年咲いたことだろう。黒く太い古木がしっかりと支えられている。それでも幹から美しい花が吹き出していた。若木は倒れないように紐で結ばれている。若い木は一輪 二輪と咲き始めたばかり。毎年満開の桜を楽しんできた堀のまわりは今、世代交代を始めているようだった。岸和田城はいつもと変わらない様子で見守っていた。さわやかな気持ちで歩いた今日この日の道・・・(応募者：75歳／女性)



7. 春木川遊歩道
(兵主神社横)

この遊歩道は中央公園をウォーキングした帰りに通る道です。横には兵主神社があり、時々ですが家族の健康をお願いにお参りします。(応募者：72歳／男性)



久米田寺には子供の頃から何度もお参りさせてもらっていますが、いつも山門や駐車場から（つまり久米田池側から）境内に入っていました。そのため、このような趣のある「みち」が池の反対側にあったことを最近までは、まったく知りませんでした。趣味のクラブの先輩にこの道を教えてもらいましたが、清楚で、ちょっとミステリアスな雰囲気がとても印象的で、すぐに私のお気に入りの場所となりました。また、狭い道なので、知らない人同士でもすれ違う際には声を掛け合っていることも、私が気に入っている理由です。(応募者：64歳／男性)



9. 久米田池遊歩道
(平成26年度指定)

散歩が好きな私は、色々なところへよく歩きに出かけます。写真の遊歩道は久米田寺へお参りした後、久米田池を一周するために歩いています。四季折々に花が咲きますので、楽しく散歩することが出来ます。皆様も歩きに行かれてはいかがでしょうか？(応募者：71歳／男性)



10. 久米田池遊歩道
(平成27年度指定)

◆朝、久米田池の方に行ったら、いい風景があるかなと思い出掛けました。昔に比べて久米田池もすごくきれいになったなあと思いました。前に池に浮かぶ建物を友達がムーミン塔とっていました。おもしろかったので写真に撮らせてもらいました。(応募者：41歳／男性)

◆久米田池の遊歩道の桜の花が咲いている時も、散り敷いている時も美しく花びらを踏むのはもったいないと思いながら朝の散歩や撮影を楽しんでいました。(応募者：73歳／女性)

◆府下最大級のため池である久米田池は四季折々の絶景を演出し、池を取り巻くこの道は春の桜、夏まつり、行基参りに続く紅葉、そして時折出会える冬の雪みちと見る人に楽しみを与えてくれます。また、普段からもここへくると野鳥、日の出や夕日が沈んでいく情景との出会いなどさまざまな味わいを与えてくれます。(応募者：75歳／男性)



11. 東ヶ丘町
グリーンベルトロード
花絨毯

◆「グリーンベルトロード」…わが町東ヶ丘。町の中央を横断するグリーンベルトと呼ぶ土手がある。土手には町開きの記念樹となる桜の木が植えられた。以来40数年、桜木は町が成熟し、次第に高齢化社会へと辿る姿を見つめて来た。桜木は衰えぬ己を誇示するかのように今、満開の花を咲かせている。町で生まれ育った三男も出ていき、夫婦二人の落ち着いた生活になると、年々グリーンベルトの桜花に逢える春が待ち遠しくなる。二人でグリーンベルトロードを行き来し、ほんわかとした気分になるのが春の恒例となっている。(応募者：76歳／男性)

◆200mにわたる斜面ベルト方式の緑地帯に、樹齢44年のソメイヨシノ桜183本が植樹され、春には2000人超町民へ春の華輝きと香りをおおいに楽しませくれますよ。また、雨降り、風吹きによる花吹雪と花絨毯はさらに町民の心と体に元気のいづどりを培わせてくれます。尚、道路の他に、桜樹林帯にも散歩専用の徒歩道もあり安全に桜見物が出来ます。是非、お家族でお花見散策にお越し下さいませ、東ヶ丘町へ(応募者：74歳／男性)



12. 流木墓園
桜並木みち

流木墓園の桜を見て主人と蕾が固いとか満開の時がいいとか話しながら歩きました。しかし今では思い出の道、今年も変わらず美しく咲いていると一人で花を見て通ります。花の時季はとても慰められる道です。(応募者：73歳／女性)

ここに残るみち景観 応募者エピソード集



13. 阿間河滝町の
阿弥陀寺への参道

古い町並みの残る山手の街・阿間河滝地区。その町並みでも街道筋から阿弥陀寺へ抜ける参道は坂道と石垣、古い板壁の建物がコントラストを成して、このエリアを散策する時の1つのハイライトです。(応募者：52歳／男性)



14. 包近楠本神社
もも花参道

包近北の交差点、水道道、牛滝川の橋を渡り右へ入ると楠本神社の参道です。この道は桃畑の中をまっすぐ神社へ300m程度の桃花参道である。中ほどには素晴らしい桜の木が灯籠とともにそびえている。4月中旬から5月上旬にかけこの道は花に彩られるよ。又、桃畑はタンポポ、ツクシさんがさらに春を謳歌し、この道の楽しさ輝かしさを描いてくれます。小さな道ですが春をうっとりさせてくれますよ。さらに桃さんを食べたい気分が一段と増しますよ。(応募者：74歳／男性)



15. 桶田町の
まちなみ

短い街並み街道だが、私の心を揺さぶった古民家の街並みである。道の両側に建ち並ぶ町家は瓦葺の屋根で石垣造りの地盤に漆喰の塀壁、蔵造り、木製の引き戸壁、心地よい素朴なまち、城下町の田舎暮らしの良さが、心と目にしのんでくる、このまちの歴史・文化・くらしに触れてみたくなる轟川の宝町と感じられた。(応募者：75歳／男性)



16. 牛滝街道(積川町)

◆岸和田に自然豊かで静かな場所があるとは知りませんでした。新しい岸和田のイメージができて、岸和田のことをもっと知りたいと思えた一枚です。(応募者：23歳／男性)

◆日差しが強く厳しい暑さの日でしたが、水路と日影が続く気持ちの良い道でとても涼しく歩くことができました。趣のある建物と塀とが一層みちの雰囲気を作り出した良いものにしているなと感じました。天気の良い日だったのもあり、どこを撮っても絵になるような道だと感じました。(応募者：21歳／女性)



17. バラの小道
(蜻蛉池公園)

蜻蛉池公園は岸和田市に38年前に引っ越して以来、バラ公園の時代から毎年何回も訪れていますが、やはりバラの咲く時期が最も華やかで印象的です。その内でもアーチをくぐって階段状に続く小道はいつ訪れても心に残ります。(応募者：71歳／男性)



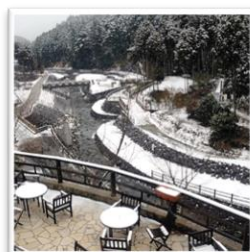
18. メタセコイアの
小道
(蜻蛉池公園)

蜻蛉池公園は、岸和田市に38年前に引っ越して以来、バラ公園の時代から毎年何回も訪れています。やはりバラの咲くころは華やかですが、もうひとつ心に残るのはメタセコイアの巨木の小道です。冬に葉を落とした枝に春先の新芽が出るころの力強さ、真夏の暑さにも負けない濃い緑の堂々たる姿も大好きです。(応募者：71歳／男性)



19. 相川
ほたる遊歩道

6月のおわりごろには、蛍が飛び交う様子が楽しめます。向かいには棚田の風景が広がり、田植えの季節にはカエルの合唱が響き渡ります。昔の岸和田にタイムスリップしたような錯覚を覚えるのどかなみちです。(応募者：71歳／男性)



20. 牛滝いよやかの郷
散策道

春は桜、夏は木陰の清涼、秋は紅葉そして冬の雪景色と牛滝の四季は我々に自然の美を満喫させてくれます。その美を手軽に楽しませてくれるいよやかの郷の横を流れる牛滝川沿いの散策道があります。ここで四季の花、彩、そして香りに酔いしれて1日を過ごしたり、冬の雪景色を楽しんだ際は美人の湯とも言われるいよやかの郷温泉でほっこりと温まることで豊かな心地にさせてくれます。(応募者：75歳／男性)



21. 和泉葛城山
登山道

和泉葛城山は高さ858m、塔原登山口から山頂までは徒歩2時間30分。頂上には八大竜王社、そして展望台がある。和歌山、大阪湾、関空など360度展望出来る。この山のすばらしさは、疲れを知らずに秋の紅葉、冬の雪景色、そして晩秋から初春まで、霧氷、樹氷が堪能できることでしょう。さらには登山道の自然林「国の天然記念樹ブナ林」が、心うきうき、眼きらきら輝かせてくれますよ。正月に帰省する、長女家族、長男夫婦と一緒にこの道を雪景色、霧氷、樹氷景色めざして登るのが我が家の楽しみで、孫たちのキャ、キャ声が登山道に鳴り響くのがここに残る思い出です。(応募者：74歳／男性)

ここに残る景観資源 これまでの指定資源一覧

ここに残る景観資源発掘プロジェクトにより発掘、指定した景観資源は、2021年3月現在、樹木景観15件、みち景観21件、水辺景観15件、まち景観19件、ひとの営み景観10件となります。それぞれの景観資源については、パンフレットまたはホームページで紹介していますので、是非、ご覧ください。

ここに残る樹木景観 15件指定



- 01_中央小学校のエノキ
- 02_二の丸公園 マツ
- 03_岸和田城堀端の桜並木
- 04_上町の楠
- 05_中央公園のモミジバフウ
- 06_中央公園のポプラ並木
- 07_吉井町のエノキ
- 08_西向寺のいぶき

- 09_流木墓園の桜並木
- 10_奥家の棕
- 11_蜻蛉池公園のヤナギ
- 12_蜻蛉池公園のメタセコイア
- 13_積川神社の棕と楠
- 14_大沢神社の杉
- 15_塔原町・サクラ

ここに残る水辺景観 15件指定



- 01_はためく岸和田漁港大漁旗雄々しく
- 02_お堀と城下町
- 03_岸和田城を彩る夏の華
- 04_岸和田城水辺
- 05_久米田池の幻想的なハーモニー
- 06_水鳥と久米田池
- 07_山直中町 錦秋のスリバチ池
- 08_田治米町 ポピー咲く七ツ池
- 09_蜻蛉池公園大池の水鏡
- 10_積川町 水路のある古の町並み
- 11_意賀美神社横 雨降りの滝
- 12_内畑町 田んぼへの水引きの始まり
- 13_大沢町 サギも降り立つ棚田
- 14_牛滝山大威徳寺 一の滝
- 15_牛滝の谷にそそぐ錦流の滝

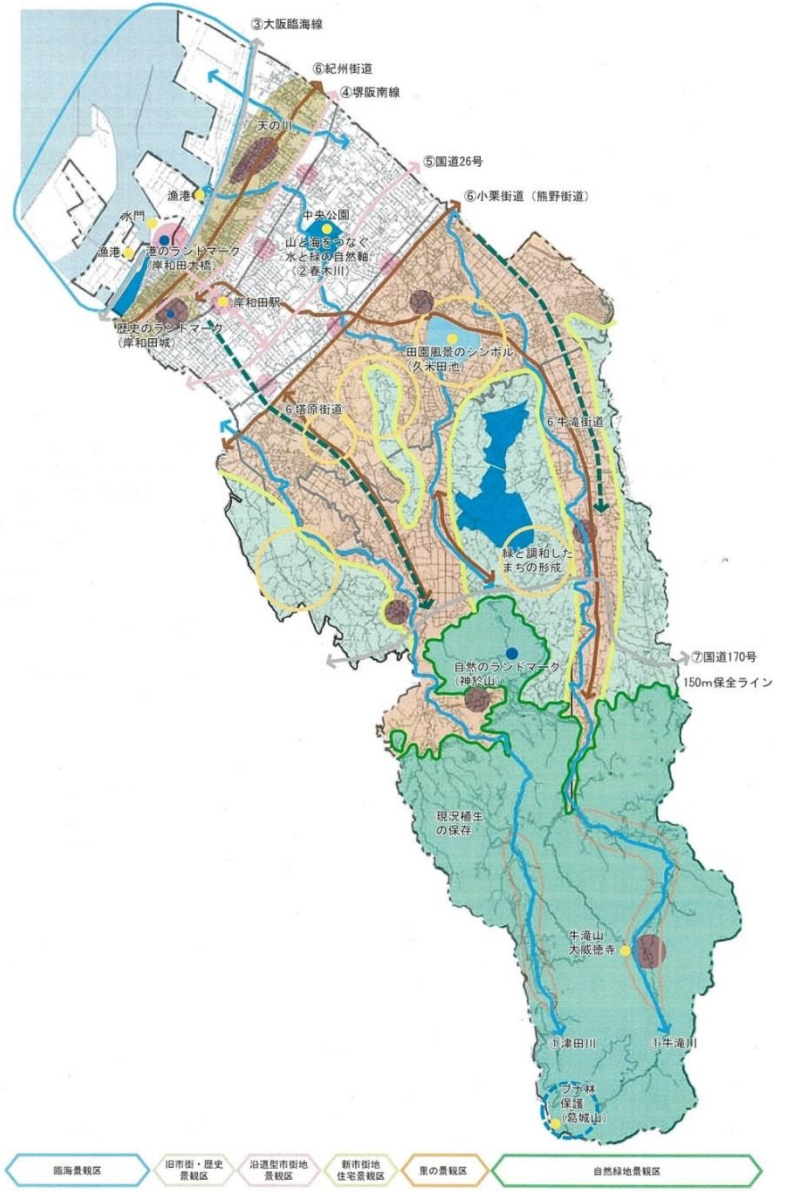
プロジェクトの系譜

岸和田市景観計画

岸和田市景観計画は、恵まれた自然・歴史・文化資産を活かし、岸和田市にふさわしい風格ある景観づくりに努めることで、更に岸和田らしい魅力あふれた快適なまちとして、これを次代の市民、事業者を引き継いでいくことを目的に策定しています。

景観形成の基本目標である『豊かな自然環境と歴史的環境が織り成す「個性的快適環境都市」の創生』を実現するためには、市民、事業者、行政が総合的かつ多面的にお互いの立場を理解しながら協力し、優れた景観をまもり、はぐくみ、つくりだし、次の世代へつないでいく必要があります。

基本景観区	主な土地利用
臨海景観区	工業、港湾
旧市街・歴史景観区	住宅、商業
沿道型市街地景観区	住宅、商業、工業
新市街地住宅景観区	住宅、商業
里の景観区	農地、樹林地
自然緑地景観区	樹林地



ここに残る景観資源発掘プロジェクト

ここに残る景観資源発掘プロジェクトは、地域の景観の核となる資源を発掘し、その情報を蓄積、共有していくことで地域の魅力を高め、郷土への愛着や誇りの醸成と地域価値の向上に寄与するなどの効果を創出する事を目的として平成24年度よりプロジェクトを実施しています。

【指定状況（2022年3月現在）】

樹木景観15件、みち景観21件、水辺景観15件、まち景観19件、ひとの営み景観10件、眺望9件】



まちかど審査の様子

プロジェクトの流れ



「未来へつむぐ物語」

「景観十年・風景百年・風土千年」と言われるように、私たちの日々の営みが、いつか時を経て、風土としてその土地に息づくことを想定しながら、「未来につなぐ」景観形成に取り組むことが重要だと考えられます。

これまで、優れた景観形成に寄与する地域の人々に大切に守られてきた「樹木」「みち」「水辺」「まち」「ひとの営み」について景観資源を発掘し、その情報を蓄積、共有に努めています。

「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」の詳しい内容は岸和田市ホームページからご覧いただけます。

岸和田市ここに残る景観資源

検索



問合せ先：岸和田市まちづくり推進部都市計画課 景観担当

〒596-8510 岸和田市岸城町7-1 ☎072-423-9538(直通)

ここに残る景観資源発掘プロジェクトはこちら



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です